

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名: 国際島嶼教育研究センター・准教授

氏名: 山本宗立

授業科目名	太平洋島嶼学特論
研修先(国・地域) 滞在地	ミクロネシア連邦チューク州、グアム(アメリカ合衆国準州)
研修期間	平成29年9月3日～平成29年9月10日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>ミクロネシア連邦チューク州ピス島では、小学校教員と教育について議論を行い、鹿児島県島嶼における問題点との類似点・相違点を学んだ。そして、伝統的な食事(パンノキ、芋類、バナナ、ココヤシ、魚介類)を島人と共食するとともに、魚介類の捕獲・採集を体験した。電気・ガス・水道のない小さな島で、半自給的生活を経験し、現代人が忘れかけている「生きるとは何か」について再考・熟考する機会を得た。人が「豊かな」暮らしを持続的に実現するために必要な、自然生態的基盤、政治経済的基盤、社会文化的基盤について理解を深めた。また、ピス島の島民に対して、学生が主体となって英語によって様々な質問をすることで、島の伝統的な社会や文化、風習、生活を学ぶとともに、鹿児島県島嶼が抱える課題との共通点・相違点を直に学び、鹿児島県島嶼に還元できる地域活性化策とは何かを考える機会を得た。</p> <p>ミクロネシア連邦チューク州ウェノ島では地元の市場を訪れて地場産の作物や魚介類について学び、近代的な設備を持つスーパーマーケットでは多種多様な輸入食品が多量に販売されていることを確認し、MIRAB経済の構造を理解した。また、第二次世界大戦の遺跡を見学し、ミクロネシアの歴史観を学ぶことにより、一面的ではない、多面的な視野を獲得できたとともに、チューク州における観光産業の重要性を学んだ。</p> <p>グアムでは島の南部を半周し、グアム島の自然(植物・動物・地形等)を学んだ。また、太平洋戦争国立歴史博物館を訪れ、日本の視点ではなく、アメリカ合衆国からみた太平洋戦争を学ぶことで、多様なものの見方を身につけた。そして、チャモロ文化村を訪れて、チャモロの歴史や文化を学んだ。大学間学術交流協定のあるグアム大学を訪れ、教育学部の Yukiko Inoue-Smith 先生にミクロネシア地域における教育・文化・社会・キャリア形成について講義をおこなっていただき、2時間に亘り学生と活発な議論をしていただくことで、学生たちは国際的な視点を身につけることができた。ピス島出身で現在グアム島に住んでいる家族を訪れ、就労・教育機会等を求めてミクロネシア連邦からグアム島に移住した人々の生活を観察し、拡大家族の重要性を認識するとともに、MIRAB経済の構造を再度理解した。また、彼らと英語により交流することで、コミュニケーション能力および英語能力が向上した。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>学生の安全面・健康面に全く問題がなく、講義を円滑におこなうことができた。今後の課題としては、研修前または研修中に国際政治的な問題が生じた場合、鹿児島大学の危機管理マニュアルに沿った行動を迅速にとれるよう、学生に周知するだけでなく、教員自身も講義実施の可否判断を含めた対処方法を考えておく必要があると思われた。</p>	